

カヌーに乗って琵琶湖に触れよう

記録担当 山脇秀錬

2018年8月7日（火）にびわ湖トラストの親子環境学習事業を大津市雄琴のアウトドアスポーツクラブ『オーパル』にておこないました。

『カヌー体験』『プランクトン観察と水草パウチづくり』『外来魚調べ』の3グループに分かれ、3つを順番に体験していただきました。

60名の定員を77名に増やして、公益財団法人平和堂財団のサポートをいただき、参加費無料で開催しました。

今年の夏は酷暑のため熱中症への対策として、カヌーで漕ぎだす前に救命胴衣を着た上から水のシャワーで体を濡らしていただき、気化熱で涼しくなるようにしました。カヌーは、2人乗りを中心に1人乗りも使い、皆さん元気にびわ湖へ漕ぎだしました。親子でゆっくり楽しみながら、びわ湖の湖岸の迷路のようなヨシ帯を観察しました。また、カヌーの上から水中を覗くと、水の透明度も高く、水中が水草のジャングルようになっていました。カヌーは、漕ぎ方さえ覚えれば、どこでもスイスイ水上を移動できます。プカプカ浮いているだけでも楽しく、慣れてくれば時速4kmぐらい（ちょうど散歩する程度の速さ）のスピードが出ます。参加者の皆さんは、湖上から見る景色や、びわ湖の波や風などを体感してもらえたと思います。

プランクトン観察は、高島いきものふれあい室の青木さんの指導のもとにおこないました。親子で顕微鏡を操作し、びわ湖の小さな生き物を観察しました。植物プランクトンの不思議な形や、元気よく動き回る動物プランクトンに、魅了されました。

お父さんやお母さんが子ども達より一生懸命顕微鏡を見ておられる姿もありました。びわ湖の豊富な生き物の奥深さを感じられた体験でした。

水草パウチは、びわ湖の水草を採取し、新聞紙で水気を取ります。台紙に水気の少なくなった水草置いてラミネート加工することで、水草のいろいろな形を身近に見ることができるようになります。楽しみながら水草に興味を持ってもらう取り組みです。びわ湖にしか存在しない固有種の水草や外来の水草など青木さんに解説してもらいながらすすめました。

外来魚調べは、魚釣りをすることで釣れる魚の現状からびわ湖を調査する活動です。今年は特に外来魚も釣れにくい状況が続いていましたが、やはりあまり魚が釣れませんでした。外来魚しか釣れなくて、しかも釣れる量が減っていることから、今のびわ湖について考えました。

この親子環境学習事業は、びわ湖の水環境を学ぶ場として、楽しく体験しながら楽しく学ぶことができる貴重な機会だと思います。これからもびわ湖のことを楽しく学びましょう。



水草採取



水草の水気を新聞でとる



水草パウチ



水シャワーで熱中症対策





外来魚調べ (つり体験)



プランクトン観察

